

圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
 発行人：齋藤 和好 編集人：前沢 千早
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

第47号内容

・岩手医大付属病院 着工
 矢巾 19年9月開院目指す

岩手医大付属病院 着工

矢巾 19年9月開院目指す

岩手医大(小川彰理事長)は13日、矢巾町に新築移転する新付属病院の起工式を現地で行った。2019年9月の開院に向けて4月に



工事の安全を祈願してくわ入れする小川彰理事長

大学関係者や施工業者、増増知事、高橋昌造矢巾町

本格着工し、同町への総合移転整備計画は最終段階に入る。安全を祈願し、「患者本位の安心・安全で快適な医療の提供を第一に、地域医療の充実」に最大限の努力を傾注する」とあいさつした。

病院本体の延べ床面積は約8万6千平方メートル。地上11階建てで、病床数は千床。1～3階が外来、4階が手術や集中治療、5階が医局や事務、6～10階が病棟のスペースとなる。工事費は約430億円。

新病院の基本方針には▽小児・周産期、救急部門の機能強化▽本県の高度医療を集約する将来的な3次医

療拠点ゾーン形成などを掲げる。同大は敷地内に民間ホテルの誘致を目指しており、建設場所や業者の選定などを進めている。

同大は矢巾町への病院移転に伴い、盛岡市内丸に内丸メディカルセンターを整備する方針。当面は既存の付属病院を活用し、数年後に歯学部棟のある場所に新築する予定だ。診療科目

は現行と同程度で、50床の入院ベッドを設ける見込み。

内丸メディカルセンターの新築に合わせて解体する現付属病院跡地(約2.5ha)の活用策が課題となっており、市中心部に生まれる空白地をどう活用するか、県、盛岡市、盛岡商工会議所、同大の4者を中心に検討を進めている。

岩手日報 H29. 3. 14